

硬式庭球部  
(男子)

仲間がいるから頑張れる！  
支え合いながら成長し続けよう。

昨年度から特別強化指定クラブに認定された硬式庭球部(男子)。テニスプレイヤーの育成に携わる「株式会社トップラン」との提携により招聘した大崎翔平監督の指導のもと、日々研鑽を積んでいます。2名の部員とともに、今年2期目を迎えた硬式庭球部の姿を紹介します。

クラブ活動実績

- ・2019年度 関西学生春季テニストーナメントダブルスベスト32
- ・2019年度 関西学生テニス選手権大会本戦出場
- ・2019年度 関西学生チャレンジテニストーナメントシングルスベスト4
- ・2019年度 関西学生地域テニストーナメント(兵庫)ダブルス準優勝



2019年度公式戦での部員たちの勇姿



●健康科学部 健康システム学科2年生  
田中聖人(相生学院高等学校出身)

●健康科学部 健康システム学科1年生  
堺大志(相生学院高等学校出身)

みんなテニスにのめり込んでいる

硬式庭球部(男子)の部員数は、現在1年生5名、2年生6名、3年生2名の合計13名。現代ビジネス、健康システム、看護の各学科から集まった、テニスを愛する仲間たちです。

1年生の堺大志さん(健康システム学科)と2年生の田中聖人さん(健康システム学科)は、小学校時代にテニスクラブで知り合って以来の仲。出身高校も同じです。堺さんが兵庫大学をめざすようになったのは、特別強化指定クラブとしての1期生となる先輩の田中さんが、大崎翔平監督の指導のもと、めざましい成果を上げたことを知ってからでした。「ぜひ兵庫大学でテニスを続けたいと思いました」。

一方、田中さんは「兵庫大学に硬式庭球部は以前からありましたが、特別強化指定クラブになったのは自分たちの代から。ゼロからのスタートだという不安と期待がありました」と語ります。入学して感じた部の特徴は、少人数ながらもみんながそれぞれの課題に向かって練習するということでした。「練習時間は高校時代に比べて短いのに、テニスにもものすごく集中している。『のめり込んでいる』という感じです」。この点については堺さんも同意見で、「人数が少ない分、監督もきめ細かくアドバイスをしてくれるので集中しやすい。質の高い練習ができていると思います」。部員全員が仲良く、しっかり支え合えるテニス環境だという点でも、2人の意見は一致しました。

授業での学びをスポーツに生かしたい

2020年度のチーム目標は、リーグ戦で勝ち上がり、まず一つ上の部に昇格すること。田中さんは主将として「新型コロナウイルスの影響で大会が延期になり、モチベーションを維持しにくい面はあ

りますが、いつ大会が始まって準備不足にならないように、しっかり練習していきます」と語り、「個人では、関西学生選手権大会ベスト8以上、ダブルスではベスト4以上を狙います」。

堺さんは「得意のダブルスで優勝が準優勝。インカレベスト4をめざします」。

学業面では、2人とも中学・高等学校の「保健体育」教諭一種免許取得が目標です。堺さんは、「大学のウェブサイト」に、『スポーツが不得意な人にもス

屋内での練習風景



ポーツの楽しさを伝えられる体育教諭の育成をめざす」とあるのを読んで、すばらしい考え方だなと思いました。田中さんは「授業を通じて、体の構造についてしっかり学んでいこうと思います。けがしにくい体づくりにつながると期待しています」。

意欲が高まる素晴らしい環境

最後に、兵庫大学の硬式庭球部(男子)の魅力を高校生に伝えるとしたら？とたずねると「監督はテニス指導でも人間的にも尊敬できるすごい人だし、設備も整っていて素晴らしい環境です。入部すれば、必ず強くなれると思います。」(堺さん)。「まず、大学の雰囲気がいいですね。学生はみんな仲がいいし、先生も職員さんも試合を見に来てくれる。『がんばれよ』と応援してもらえるので、やる気が出せます」(田中さん)。

(取材は2020年4月1日に行いました。)